

平成 30 年度第 1 回 IODP 部会執行部会 議事録メモ(案)

議事録:木戸・江橋 09:30 開始 13:20 閉会

順番を変えて討議したので、実際の討議番号を議題の前に表示

日時:2018 年 4 月 27 日(金)09:30~13:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 共用会議室 A/B

出席者(※印は Zoom での参加):

執行部:益田晴恵(部会長・大阪市立大学) 木下正高(部会長補佐・東京大学地震研究所)

山田泰広(掘削航海専門部会長・ODS/JAMSTEC) 齋藤実篤(科学技術専門部会長・ODS/JAMSTEC)

狩野彰宏(東京大学) 黒柳あずみ(東北大学)・齋藤めぐみ(国立科学博物館) 針金由美子(産業技術総合研究所) 道林克禎(名古屋大学)・山中寿朗(東京海洋大学)

※沖野郷子(科学推進専門部会長・東京大学 AORI) (12 時頃から参加)

リエゾン:小村健太郎(陸上掘削部会長・防災科学技術研究所)

オブザーバー:木村学(J-DESC 会長・東京海洋大学) 渡辺達也(MEXT) 芹澤周(MEXT)肥田慎司(研究推進部/JAMSTEC)

事務局(CDEX/JAMSTEC):江口暢久 江橋由美 木戸ゆかり 齋藤ひかり 高橋可江

欠席者: 村山雅史(高知大学) 森下知晃(金沢大学) 林為人(京都大学) 黒田潤一郎(東京大学 AORI) 稲垣史生(EFB・ODS/JAMSTEC)

議事次第:

<審議・意見照会>

1. 前回議事録(20180119)確認資料 1
2. 活動スケジュール(次回日程・コアスクール等)資料 2-1, 2-2, 2-3
3. J-DESC 組織再編と規約改定資料 3-1, 3-2
4. 専門部会の更新資料 4, A
5. 国際委員ローテーション(次期 SEP 委員推薦者の決定)資料 5, B
6. 総会関連
 - ・総会議事次第(案)の確認・承認資料 6-1
 - ・2017 年度活動報告の策定資料 6-2
 - ・2018 年度活動方針(案)の策定資料 6-3
 - ・2018 年度予算(案)の策定・承認資料 6-4
7. JpGU 2018 について
 - ・ブース出展資料 7-1
 - ・タウンホールミーティング資料 7-2
 - ・関連セッション資料 7-3

<報告事項>

8. 科学技術専門部会開催報告資料 8-1, 8-2, C
9. J-DESC ワークショップ「科学掘削の未来」報告資料 9-1, 9-2
10. Journal Oceanography 特集号 現状報告資料 10
11. IODP の動向
 - ・掘削航海動向報告資料 11, D
 - ・国際動向報告(ECORD FB、CIB 報告)資料 12-1, 12-2
12. その他資料 13

議事次第:

<継続審議・フォローアップ>

1. 前回議事録(20180119)確認資料 1

Consensus_180427-01: 前回議事録を承認。

2. 活動スケジュールの確認・次回日程・コアスクール等 資料 2

事務局より資料説明

ちょうど本執行部会直前に2件のコアスクール申請があったため承認について審議いただきたい。

Consensus_180427-02: J-DESC コアスクール古地磁気コース及び微化石コースの開催を承認。

3. J-DESC 組織再編と規約改定資料 3

事務局より資料説明

5/7(月)までがパブリックコメントの受付期間である、現時点では1件のみ。

審議・コメント

益田部会長への直接コメントとして、J-DESC 会員の位置付けがわかりにくいというのがあった。規約では明記されており、新体制図の表記の問題なので、図内の J-DESC 会員構成員を構成機関に変更するなどの修正を検討。疑問をもたれる項目が重複するようであれば、Q&A コーナーを設けてはどうか。疑問点は十分に出してもらいたい、特にタスクフォースメンバーでない会員には、十分に周知し、説明不足を解消しておきたい。引き続きパブリックコメントを歓迎する。

Action Item_180427-01: 事務局で回答作成を行い、メール審議にかける。ウェブには、代表的な質疑に対して、Q&A コーナーを設ける。また、「構成員等」の書きぶりについて総会までに修正する。

4. 総会関連資料 6

事務局より資料説明

- ・議長選任は、会場で会員から選出いただき、その場で承認する。会計報告は、小野会計担当が、監査報告は、佐藤監査役が行うこととする。
- ・総会議事案 9「陸上掘削部会部会長の任期延長に係る審議」に関して、小村陸上部会長はじめ陸上部会執行部メンバーには、就任期間の延長が承認されている(4/5 陸上執行部会にて)。
- ・総会議事案 11「予算案審議」のうち両部会共通経費部分は事務局から説明する。

審議・コメント

- ・IODP 部会活動報告資料は、本会議中に執行部メンバーに確認をとりながら編集した。ここで議論された内容を考慮した資料を事務局が作成し、今後、1週間ほどメールにてやり取りを行い、最終確認後、確定版とする。
- ・IODP 部会 2018 年度活動方針案は、現在の組織の元で策定するが、組織改変が成立した場合に、適切に引き継ぐことができるように考慮することとする。若手育成、学会ブース、国際協力をはじめ、会員数増加、経営見直しなどなどやるべきことは多い。大学間の連携などを考慮しながら、コアスクール参加者への単位互換制度の構築なども視野に入れるべきである。新しい組織が成立した場合、国際戦略 TF を立ち上げて議論を始める必要がある。この案もここで議論された内容を考慮した資料を事務局が作成し、今後、1週間ほどメールにてやり取りを行い、最終確認後、確定版とする。

Consensus_180427-03: J-DESC2018 年度定例総会の議事次第案を承認。

Consensus_180427-04: J-DESC2018 年度予算案を承認。

Action Item_180427-02: 事務局において、IODP 部会活動報告及び活動方針案の修正反映版を作成し、メールで執行部に送付・確認する。

Action Item_180427-03: 事務局より、会員へ総会とタウンホールミーティングの詳細を周知する。

5. 専門部会の更新資料 4, A

(4 のあと 12:25 沖野専門部会長が Zoom で参加、審議事項 3、4 に戻り、審議)

沖野科学推進専門部会長より資料説明

バイオ系のプロポーザルが多いものの、対応できる委員が少ない。追加を考えているが、現在保留となっている。本専門部会メンバーは部会長を含め、現行のままもう一期行うこととし、バイオ系プロポーザルが多い場合には、外部メンバーを入れることも検討することとする。

山田掘削航海専門部会長より資料説明

8 名全員がすでに 2 期 4 年務めており、うち 2 名は 6 年間委員となっているので、半分くらいを入れ替えたい。

齋藤科学技術専門部会長より資料説明

継続性を重視し、再任を多めにしたい。執行部会メンバーと兼務となるケース、掘削航海専門部会とコンフリクトしているケースあり、個別に対応したい。

Consensus_180427-05: 科学推進専門部会、掘削航海専門部会のメンバー更新要望について、提案通りに承認。科学技術専門部会については、掘削航海専門部会と重複していた 1 名を除いて承認。

Action Item_180427-04: 科学推進専門部会において、バイオ分野の委員の追加を検討する。

Action Item_180427-05: 科学技術専門部会において、残り 1 名の委員を検討する。

6. 国際委員ローテーション(次期 SEP 委員推薦者の決定)資料 5, B

次期 SEP 委員推薦者は、幅広い年齢層とジェンダーバランスに考慮し、沖野専門部会長からの候補者リスト資料に基づき、執行部内で個々に審議を行なった結果、推薦者 2 名を決定した。

Consensus_180427-06: 候補者より 2 名を推薦することを承認。

Action Item_180427-06: 事務局より推薦者へ連絡する。また、推薦者の了解後、Science Support Office に CV を送付する。

7. JpGU2018 について資料 7

事務局より資料説明

- JpGU 期間中の展示ブースのスケジュール、内容、ターゲット層について事務局より説明を行った。JpGU 参加の執行部メンバーにはブース対応を依頼することとし、後日スケジュール調整を行う。
- 陸上掘削部会より、水月湖のコア試料(福井県所蔵)の展示計画が出ていたが、運搬費用、展示取り扱い、説明員配置など、今回の学会には間に合わない要素が多いため、来年度に向けて再検討することとする。
- 今回の JpGU では掘削科学関連のセッションが被ってしまっている。今後、セッション提案時に避けて欲しいセッション名の提示を徹底し、できるだけ調整してもらおう。関連イベントセッションタイムテーブルを J-DESC ウェブサイトに掲載するので、執行部メンバーには情報を寄せてもらいたい。
- タウンホールミーティングを今年も開催、事務局はできるだけ早く、総会とタウンホールミーティングの日程を J-DESC 会員にメールで流す。

Consensus_180427-07: JpGU2018 期間中の執行部メンバーの協力体制について承認。

Action Item_180427-07: 事務局より JpGU 期間のブースへの執行部メンバーのシフトの調整を行う。執行部メンバーは各自都合の良い時間を返信する。

Action Item_180427-08: 事務局において、水月湖サンプルについては来年度展示できるように、展示方法などの検討を行う。

<定例報告>

8. 科学技術専門部会の開催報告資料 8, C

齋藤科学技術専門部会長より、配布資料に基づき、1/29 の部会開催報告を行った。

・掘削パラメタのデータについて、CDEXがデータのQCをしていない状況で、研究者がしようするのは難しい、研究者・技術者間で勉強会を設ける設定はできる、データ利用時には、注意が必要、という点を周知したい。データの提供方法は、現状で十分であるが、提供時にはデータについての何らかの手引書が付き、必要なコンテンツが入っていることが望ましい。

木下:前回から前に進んでいるようで良い。

小村:掘削パラメタは現状でも入手可能であるが、さらにアクセスしやすくなる、ということか？

事務局江口:そういうことではなく、手引書によってよりクリアになる、ということ。

斎藤:現在、掘削パラメタは2000種類近くあり、10秒間隔で更新されているが、その中で100くらいが重要である。データQAQCの問題があるので、積極的に出していない。使えるところから使ってもらいたい。

9. J-DESC Workshop「科学掘削の未来」開催報告.....資料 9
事務局から簡単な報告。資料参照のこと(STA 受賞者のレポートについて、WS の今後の方向性については、議論する時間がなかった)。
10. Oceanography 特集号 現状報告.....資料 10
事務局より資料配布と簡単な説明。
今後別刷りの冊数、PDF ファイルの配布方法などを検討することとする。
11. IODP の動向
・掘削航海動向報告.....資料 11, D
・国際動向報告(ECORD FB, CIB 報告).....資料 12
事務局より資料説明。
再公募になっている Exp.385 は、非常によくできたプロポーザルであり、優れた研究成果が出てくることが期待される。積極的に応募する人を募るべきであるとのコメントがあった。
12. 陸上掘削部会の動向
陸上部会部会長より、ICDP 加盟に関する MOU 更新について、説明があった。3年目の節目を迎えており、陸上掘削部会としては、是非更新したい。要望書を用意しており、陸上掘削部会長だけではなく、J-DESC 会長および IODP 部会長の連盟としたいという要望に対し、会長・部会長は同意した。

Consensus_180427-08: ICDP 加盟に関する MOU の更新のための要望書について、会長及び IODP 部会も協力することを承認。
13. その他
益田部会長より、来年の 2019 年 10/27-11/2 に修善寺でワークショップを開催する計画の説明があった。
・将来の IBM 掘削プロポーザルに繋がりたい。Arc システムだけでは限界があるので、マントル- Fore arc も組み込み、全島弧システムとしたい。今後も適時情報を共有するので、連携・ご協力いただきたい。

Action Item_180427-09: 次回執行部会日程について、総会の後、6月上旬あたりを候補として日程調整を行う。